



かんぼれん

～カンボジアの友と連帯する会～ 41号 2024.6



2024年スタディーツアー日記

勝間田 大喜

2/24日 成田空港には一番についた。飛行機で移動。乗換えのホーチミンはとても暑い。プノンペンがスリランカのコロンボに近い感じがした。イエズス会の修道院で夕食、マンゴーがとても美味。パクチーは耐えた。

25日 午前中、見学したトゥールスレン虐殺博物館は生々しく、死のにおいがした。床には血痕などが残っていた。これでも整えられたらしい。キリングフィールドの供養塔は内部に遺骨が収納されている。頭骨よりも腕や足の骨がかえって心に響いた。どちらも、のどかで良い場所に立地していた。

それから、子どもの家 Light of Mercy Home を訪問した。頼もしいシスター アン マリの元で子どもたちは楽しそうにしていた。英語も上手。自分もうまく話せなかった。敷地内でナマズを育てて食用にしているのが印象的だった。

26日 午前中は移動。シェムリアップの空港は新しくてきれいで空いていた。プロペラ機でテンションが上がる。途中トンレサップ川がよく見えた。シェムリアップのホテルは観光客が減って休業中が多い。

14時30分頃シソポン着。JSC 事務所で説明を受ける。責任者のピチェカさんが説明してくださいました。想像よりも遥かに広大な領域をカバーしていて驚いた。支援の具体的内容や仕事の丁寧さもよく理解できた。

27日 8時に事務所出発。午前中は5か所6人、午後は2か所4人を訪問。支援している人々の中でも状況に差があり、米から酒を造って生計を立てている家族は明るく、両親がいる方が子どもも元気そうだった。

どの家でもニワトリを飼っていて鳴き声がある。食用と売りに出している。

両親がいなかったり、タイに出稼ぎに行っている子どもも多い。その先の労働条件も良くないようだ。この2月に地雷被害にあった人もいた。

これにはとても驚いた。



祖母に預けられた孫

28日 8時に出発。ホームガーデンなどを見に行く。なかなか立派である。1日3ドルほどの収入になる。牛や池があるとやはり安定する。

小学校で昼食。子どもたちに紙飛行機の作り方を教えた。とても喜んでくれた。

先生にも頼まれたので来年も来ようと思っている。

田舎の道は大変な悪路で車の底が何度も擦り、心がすり減った。



紙飛行機折り方説明

29日 午前中はザビエル・スクールを訪問。とても広くて立派で、かわいい校舎だった。責任者は熱心な方で、現状の良さと困難さを丁寧に説明して下さった。卒業生は大半が何らかの形で学業を続けているらしい。とても良いことだと思う。しかし教師不足や予算不足が苦しいとのことだった。

昼食後、シエムリアップへ移動。

午後はHALOトラスト(地雷撤去NGO)を訪問し説明を受けた。本部人員わずか300人で世界中に活動を展開していて、すごいと思う。地雷は初めて現物を見たが、とても小さく軽い。その他にも多種の不発弾等もあり、地雷除去の具体的なやり方の説明も興味深かった。

夜アップサラダンスをみた。音楽は心に響くものがあつた。そしてご飯は大変美味しかった。

3/1日 7時30分に出発し、ベン・メリアへ向かった。朝は自分達しかおらず、森の大樹に飲み込まれつつある崩れた大寺院はとても幻想的であつた。世界にはこんな場所があるのか、とただ息を飲むばかりである。写真にうまく写らず難儀したが、日が出てくると人も増え、同時に写真も良いものが撮れた。

昼食は市中心部のオールドマーケット、クメールキッチンというレストランでとつた。味がよく、安い。この後もここを使いたい。

18時にボネット神父さんたちとお別れ。メッタカルナの夕食は素朴だがとても美味しい。私は更に5延泊した。